

令和 5 年 4 月 15 日現在

機関番号：32683

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2019～2022

課題番号：19K00089

研究課題名（和文）現代エジプトにおけるクルアーン解釈とその社会的受容ーカイロ大学とアズハル大学ー

研究課題名（英文）Interpretations of the Qur'an and their social reception in modern Egypt: Cairo University and Azhar University

研究代表者

大川 玲子 (Reiko, Okawa)

明治学院大学・国際学部・教授

研究者番号：50434189

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,900,000円

研究成果の概要（和文）：「現代クルアーン解釈者と越境としての亡命 ファズルル・ラフマーンとナスル・アブー・ザイド」ではカイロ大学出身の学者アブー・ザイドのクルアーン解釈を解明し、神の言葉であるクルアーン解釈の現代化の難しさを指摘した。また「イスラームの聖典に読む「労働」とジェンダー～クルアーンとその解釈の可能性～」(2023年刊行予定)ではアズハル出身の学者シャアラウィーのクルアーン解釈書を分析し、神の言葉であるクルアーン解釈が強い保守性を帯びて一般庶民から支持されている様相を明らかにした。これらは現代エジプトにおけるクルアーン解釈の保守（アズハル大学）と革新（カイロ大学）の緊張を代弁している。

研究成果の学術的意義や社会的意義

一般的にイスラームはクルアーンに書かれていることに厳格に従って生活していると考えられることが多い。だが実際には時代や地域によってクルアーンの解釈が変化しており、クルアーンに基づきつつ柔軟な現実との折衷が展開されてきた。本研究は現代エジプトのクルアーン解釈に焦点をあてたものであるが、この現実との柔軟な折衷の実態について解明することができた。このため、イスラームの一般的イメージとは異なる柔軟さとまた同時に伝統を墨守する性質の根強さの双方を具体的に示すことができた。

学術的にも社会的にもイスラーム社会における聖典クルアーンの役割の重要性と、信徒による解釈の多様性を明らかにすることができた。

研究成果の概要（英文）："Modern Qur'an Interpreters and Exile as Cross-Border Exile: Fazlul Rahman and Nasr Abu Zayd," analyzed the interpretation of the Qur'an by Cairo University scholar Abu Zayd, pointing out the difficulty of modernizing the interpretation of the Qur'an, which is the word of God.

In addition, "Labor and Gender in Islamic Scriptures: Qur'an and its Interpretation Possibilities" (to be published in 2023), analyzed the interpretation of the Qur'an by Sha'alawi, a scholar from Al-Azhar, and clarified that the interpretation of the Qur'an, which is the word of God, has a strong conservatism with support of the general public.

They represent the tension between conservative (Al-Azhar University) and innovation (Cairo University) interpretation of the Qur'an in contemporary Egypt.

研究分野：イスラーム思想研究

キーワード：イスラーム クルアーン 現代エジプト

1. 研究開始当初の背景

エジプトのムスリム社会では、近代以降現代に至るまで、クルアーン(コーラン)解釈をめぐり改革派層と保守派層の間で対立が続いている。この対立がどのような思想的・社会的構造のなかで生じているのかは、未だ解明されていない。そこで本研究はこの構造を解明することを目的とし、近代化・西洋化を推進したカイロ大学の出身者と、伝統的イスラーム教育の権威であるアズハル大学の出身者による、アラビア語解釈書を比較分析する。双方の大学から3名ずつ計6名をとりあげ、解釈の特徴と社会での受容という2つの観点から論じる。この際、西洋のクルアーン研究の影響やエジプト社会における思想潮流の時代的変遷を考慮する。この分析を通して、エジプトにおける近現代のクルアーン解釈は、伝統的なものから近代的なものへと単線的に移行しているわけではなく、時代の様相の影響を大きく受け、伝統と近代化の間を緊張をもってゆれ動く構造にあるということが解明されると考えている。

2. 研究の目的

目的は、現代エジプトにおける、ムスリム学者による聖典クルアーン解釈の展開の特質を解明することである。

3. 研究の方法

文献調査が中心となる。第一次資料はアラビア語文献となり、学術書・学術論文、一般書籍、新聞(アハラームなど)、雑誌(アズハル大学刊行物など)である。これらの文献のなかには日本では入手が困難なものが多く、現地の図書館を利用するなどして、資料収集が必要となる。

4. 研究成果

初年度にはエジプトのカイロ・アメリカン大学に出張し、文献を広く収集することができた。しかしコロナ禍のため、それ以降は出張をすることができず、遠隔で文献をとりよせることで対応したが、限定的な収集となった。

そのなかでも研究を進め、論考を執筆することができ、本来の目的である現代エジプトにおける、ムスリム学者による聖典クルアーン解釈の展開の特質のいくつかの側面を解明することができた。特に「現代クルアーン解釈者と越境としての亡命—ファズルル・ラフマーンとナスル・アブー・ザイド—」『越境する宗教史(下)』(リトン、2020年)ではカイロ大学出身の学者アブー・ザイドのクルアーン解釈を、「イスラームの聖典に読む「労働」とジェンダー—クルアーンとその解釈の可能性—」(2023年刊行予定)ではアズハル出身の学者シャアラウィーのクルアーン解釈書を分析し、成果を公表することができた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計5件（うち査読付論文 2件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 Reiko Okawa	4. 巻 6/3
2. 論文標題 “ The Religious Others in the Qur ’ an and Conversion: Farid Esack on Pluralism and Reza Shah-Kazemi on Interfaith Dialogue ”	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Australian Journal of Islamic Studies	6. 最初と最後の頁 36-55.
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大川玲子	4. 巻 下
2. 論文標題 現代クルアーン解釈者と越境としての亡命 ファズルル・ラフマーンとナスル・アブー・ザイド	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 越境する宗教史（下）	6. 最初と最後の頁 299-328
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Reiko Okawa	4. 巻 56
2. 論文標題 "Interpretation of Hawwa'(Eve) in Contemporary Egypt: Tafsir(Interpretation of the Qur'an) of Muhammad Mitwalli al-Sharawi and Muhammad Sayyid Tantawi"	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Orient	6. 最初と最後の頁 00-00
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大川玲子	4. 巻 10
2. 論文標題 「インド・シーア派少数派の近代的クルアーン（コーラン）解釈 アスガル・エンジニアによる女性の地位改革」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 研究東洋	6. 最初と最後の頁 81-100
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Reiko Okawa	4. 巻 16
2. 論文標題 Interpretation of the Quran in Contemporary India: Wahiduddin	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 International Journal of Islamic Thought	6. 最初と最後の頁 108-121
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計1件

1. 著者名 大川玲子	4. 発行年 2021年
2. 出版社 慶応義塾大学出版会	5. 総ページ数 278
3. 書名 『リベラルなイスラーム 自分らしく生きる宗教講義』	

〔産業財産権〕

〔その他〕

明治学院大学国際学部付属研究所 http://www.meijigakuin.ac.jp/~iism/member/okawa_profile.html
--

6. 研究組織		
氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------